

フロリアード'92と植物検疫

フロリアードとは、チューリップと風車の国、世界最大の花き産業を誇るオランダで10年に1度開かれる国際園芸博覧会で、花を表すフローラとオリンピックアードとの合成語、すなわち「花のオリンピック」のことである。

1960年にロッテルダムで第1回目が開かれてから4回目を数え、ハーグに近いスーターメア市で4月10日から10月11日までの185日間開かれている。

今回のテーマは「オランダ及び世界における園芸技術の達成を示す」でオランダを中心に世界各国の花き産業に関する栽培、品種改良、輸送、利用方法などあらゆる最新技術や情報が7つのテーマエリアに分れて、会場面積68ha、屋内展示ホール12,000㎡の中に展示されている。

また、会期中13のテーマに沿って行われるコンテストでは、最高レベルの国際的な評価が数多く与えられることになっている。

日本の花き産業は、一昨年大阪府で開かれた「国際花と緑の博覧会」に2,300万人の入場者があるなど人々の花と緑への関心は非常に高まっており、このフロリアード'92に日本政府として初めて参加している。ここでは、近年めざましく発展したわが国の優秀な育成品種や伝統的な園芸や造園技術を世界に紹介するとともに世界の先進技

術の導入を図り、国際交流をねらいとしている。

日本政府の屋内展示場は250㎡あり、「しづさにすまう花のかたち」をテーマに日本の伝統的な家に招待するという展開で、門から縁側、屋敷庭のイメージ空間が作られており、ここで政府出展をはじめ、地方自治体や関係企業のもものが展示されている。



フロリアード会場

また、屋外展示場は1,500㎡あり、静かな空間を作る「瞑想の庭」、いろいろな催しができる「祭りの庭」と埼玉県川口市が出展した「樹の庭」からなる日本庭園になっている。

植物防疫所では、日本各地からフロリアードに出展される多種多様な植物について、オランダからの検疫要求に基づき輸出検査を実施している。

オランダからの主な要求内

容は、①植込材料の土などに有害線虫が無いこと。②サンホーゼカイガラムシ、アザミウマ類（特にミナミキイロアザミウマ）などが付着していないこと。③その他EC域内に未発生の病害虫が付着していないことなどである。

植物防疫所では、輸出検査をスムーズに実施するため、フロリアードに出展する関係者と密接な連携を保ちながら、貴重な展示植物が予定通り輸出できるように指導しており、これまで大きなトラブルは起こっていない。各所別の検査状況は次のとおりである。

那覇植物防疫事務所

沖縄県は、本土復帰後花き類の生産が大きく伸びていることを背景に、これまでにキクの切花が輸出検査を受けた。今後ドラセナやベンジャミン、ラン類を配した「沖縄の青い海、青い空」をイメージした展示が予定されている。

門司植物防疫所

福岡県は「久留米ツツジ」を品種の育成、保存、普及を図るため今年2月に輸出検査を受けて50品種500株を出展している。このうち46品種が5月にみごとに開花し、4品種が1位入賞している。

神戸植物防疫所

これまで香川県のオモト、大阪府と奈良県からササ類、タマリユウなど日本独特の植物が輸出検査を受けて出展されている。今後9月にコンテストがある秋の花として大阪府から大量のキクが出展される予定である。

名古屋植物防疫所

「キクと遊ぶ」をテーマに愛知県から出展する懸崖菊、千輪菊、蓬左菊、ポットマムなどの鉢植えや切花用菊が5月に輸出検査を受けている。このコンテストが季節外れに行われたため、関係者

は開花調整に大変苦労したが、素晴らしい作品に仕上がり金賞を受賞している。

横浜植物防疫所

埼玉県の川口市は1982年のフロリアードに参加しており、今回は日本庭園用として、樹高8m、重さ1トン以上のケヤキをはじめ多くの樹木苗木、盆栽、球根、草花苗などの輸出検査を1月に受けている。このほかサクラソウ、フクジュソウの鉢物やサクラやヤナギの切枝などが出展された。

東京都からはフェニックス、ニオイエビネ、トルコギキョウなど、群馬県からはアジサイやツツジ類、新潟県からはシャクナゲ、ボタン、サツキなどが出展されている。

また、会期中の政府/パビリオンを飾る切花は、日本各地から季節の花が集まる大田花き市場で定期的に輸出検査することになっている。

このように日本で育成された新品種や伝統的な花木が、わが国の自然や生活文化とともに地方自治体や関係団体から出展されており、非常に高い評価を得ている。

今後もわが国の花き産業はますます発展し、花き類の輸出入の増加が見込まれることから、病虫害の移動まん延を防止するための植物検疫は一段と重要になってきている。



フロリアード向け輸出検査風景